

## 大雪山の火山活動解説資料（令和7年9月）

札幌管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①～③、図3～7）

監視カメラによる観測では、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上200m以下で経過しており、噴気活動は低調な状態です。

8月24日から25日及び28日から29日にかけて現地調査を実施しました。旭岳地獄谷爆裂火口では、前回の観測（2023年7月）と比べて噴気活動の状況に大きな変化はみられず、多くの噴気孔で噴気温度が100℃以上（I-8は200℃以上）の高温な状態が継続していました。

#### ・地震及び微動の発生状況（図2-④）

火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。  
火山性微動は観測されていません。



図1 大雪山 西側から見た旭岳の状況（忠別湖東監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁のホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/ki-shou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』及び『電子地形図（タイル）』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和7年10月分）は令和7年11月11日に発表する予定です。

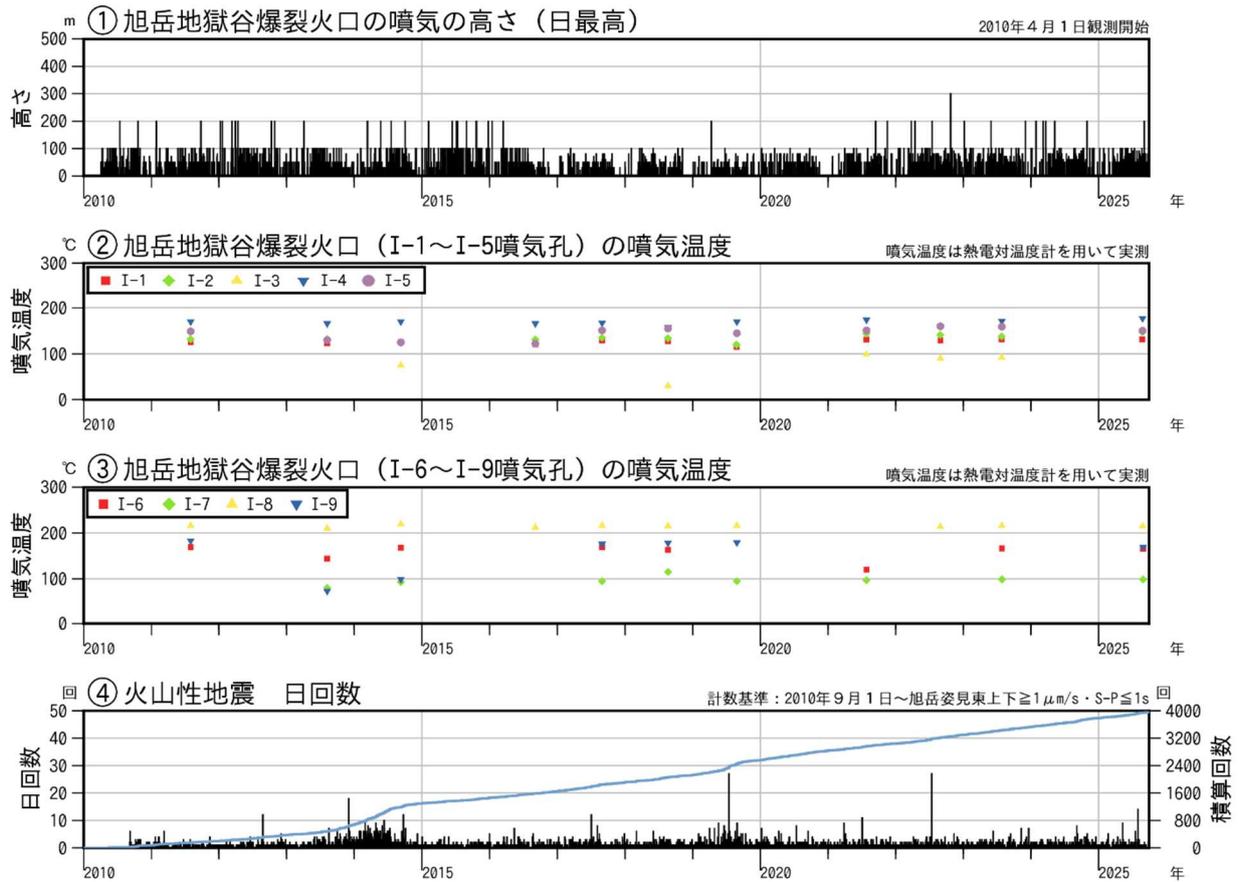


図2 大雪山 火山活動経過図（2010年4月～2025年9月）  
②③の噴気温度の測定位置は、図3（噴気孔の位置図）を参照してください。

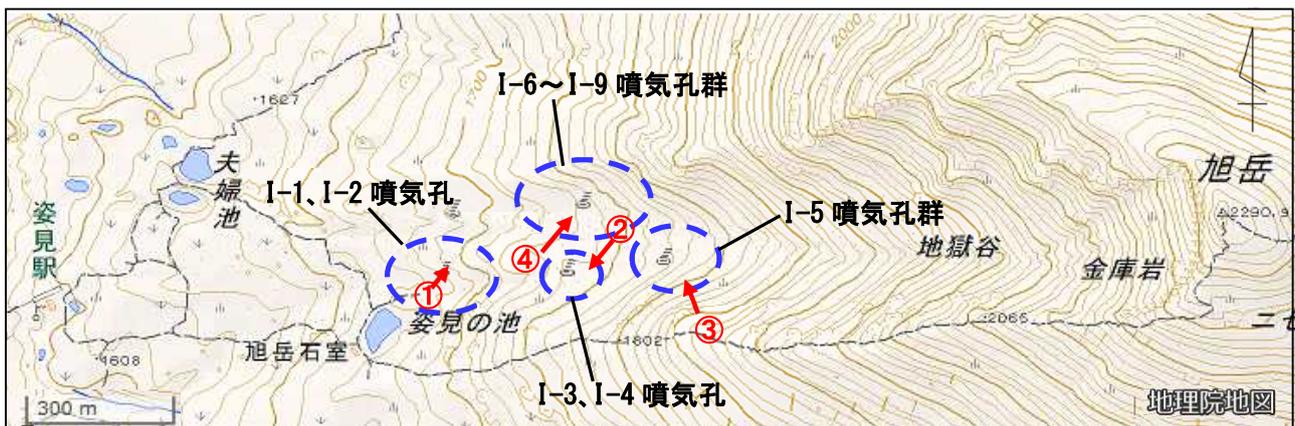


図3 大雪山 旭岳地獄谷爆裂火口内の噴気孔の位置（破線囲み）および写真の撮影方向（矢印）

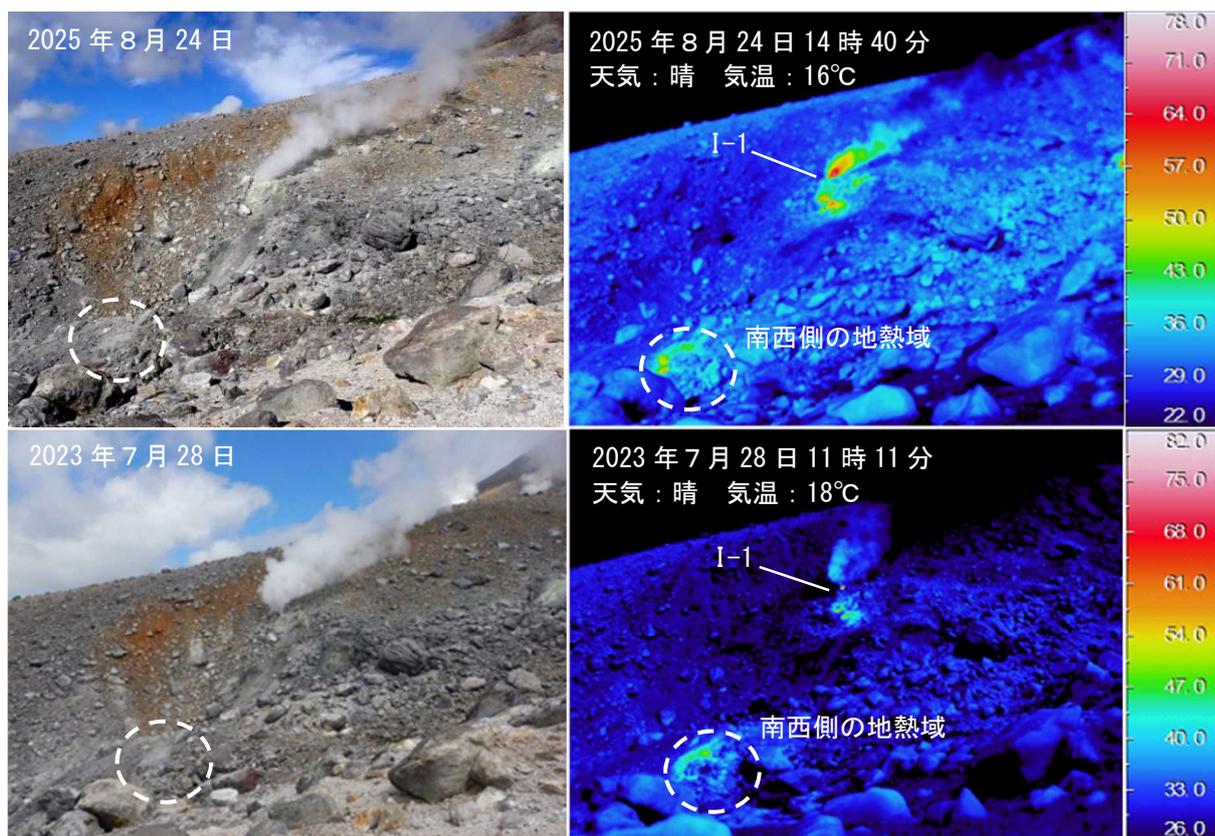


図4 大雪山 赤外熱映像装置によるI-1噴気孔の地表面温度分布 南西側(図3の①)から撮影  
 ・前回の観測(2023年7月)と比べて、噴気の勢いや地熱域の拡がりに特段の変化は認められませんでした。

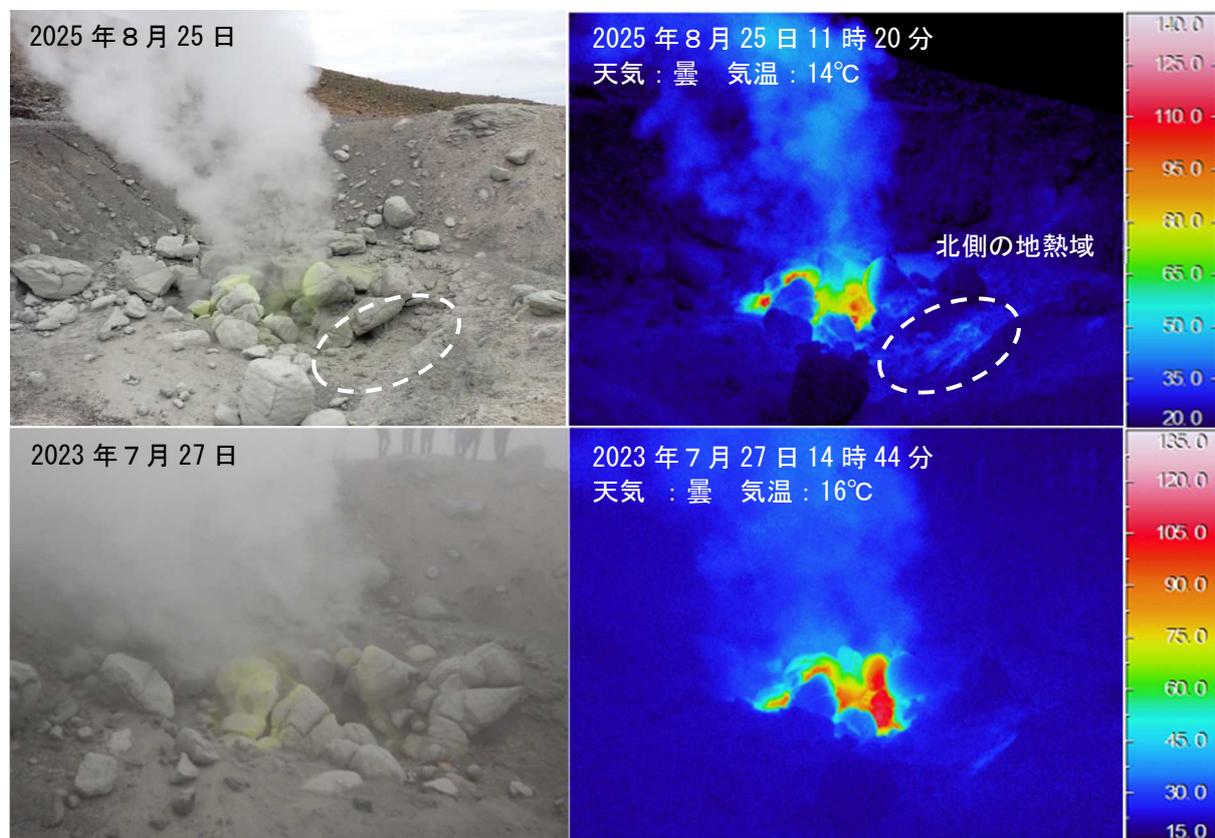


図5 大雪山 赤外熱映像装置によるI-4噴気孔の地表面温度分布 北東側(図3の②)から撮影  
 ・前回の観測(2023年7月)と比べて、噴気の勢いに特段の変化は認められませんでした。前回の観測で見えなくなっていた北側の地熱域(白破線内)を確認しました。

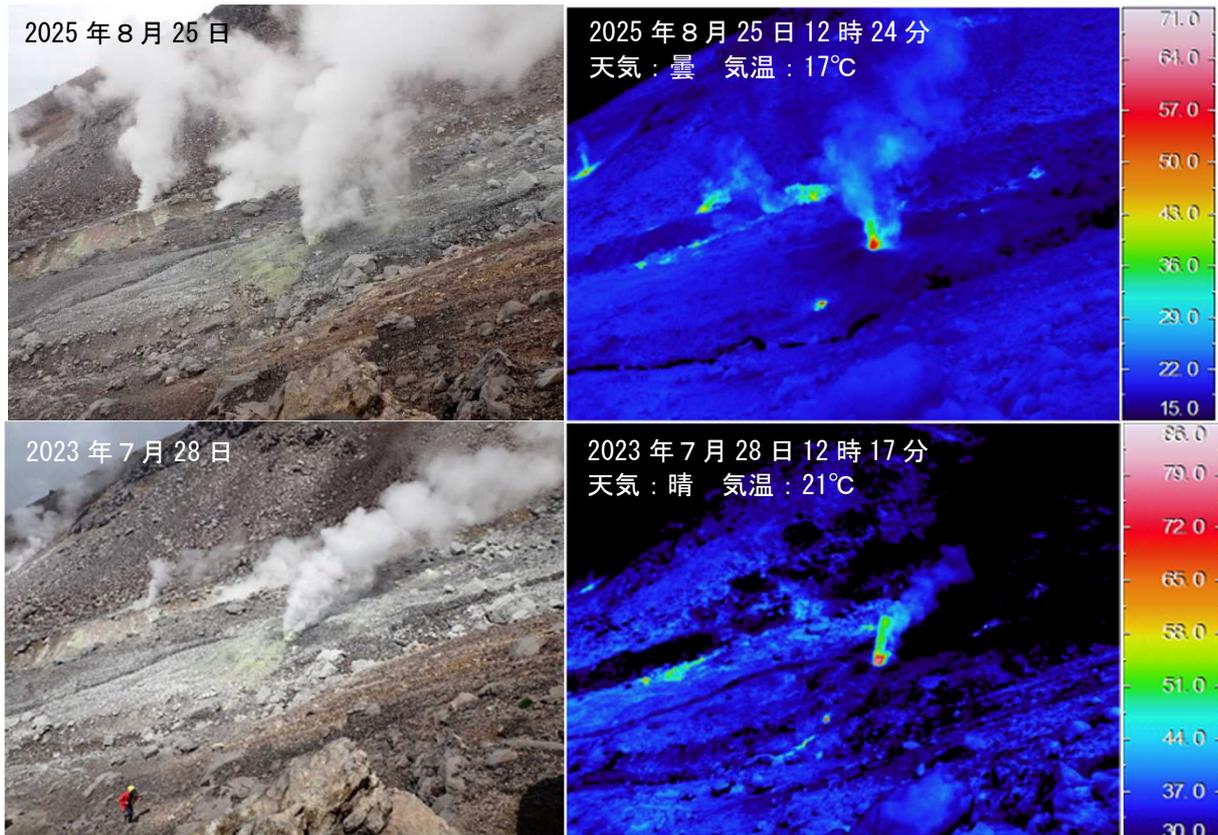


図6 大雪山 赤外熱映像装置によるI-5噴気孔の地表面温度分布 南東側(図3の③)から撮影  
 ・前回の観測(2023年7月)と比べて、噴気の勢いや地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした(地表面温度分布は噴気や日射の影響で見え方に違いがあります)。

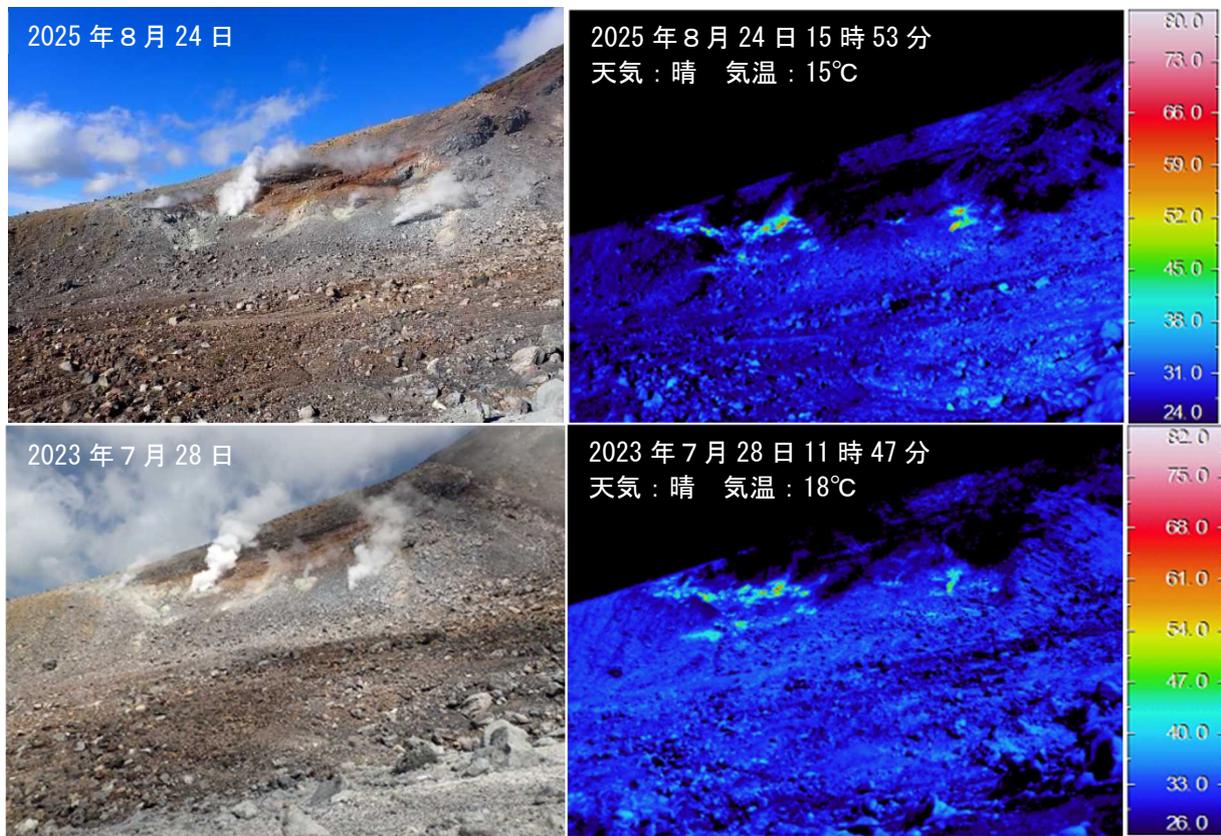


図7 大雪山 赤外熱映像装置によるI-6~9噴気孔群の地表面温度分布 南西側(図3の④)から撮影  
 ・前回の観測(2023年7月)と比べて、噴気の勢いや地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした(地表面温度分布は噴気や日射の影響で見え方に違いがあります)。

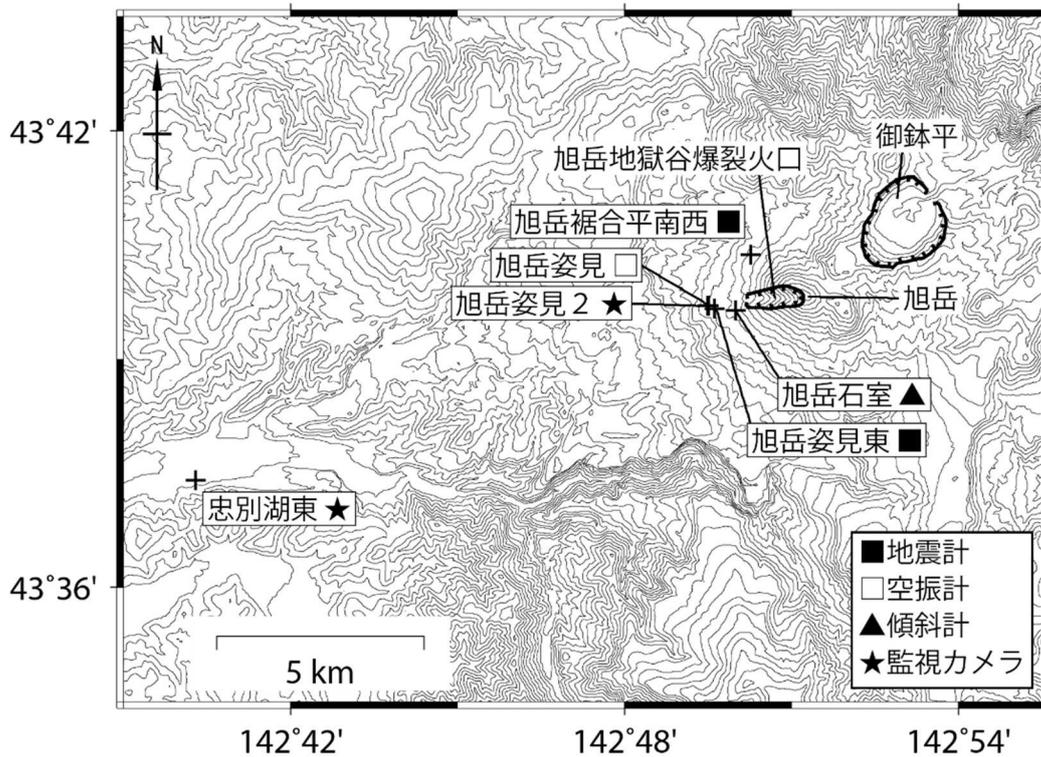


図8 大雪山 観測点配置図 +印は観測点の位置を示します。